

No. 1

最近、毎年のように日本各地で豪雨や地震大雪などによる災害が発生しています。この夏も九州地方を中心に日本各地で豪雨による災害が発生しました。これら被災地の復旧には税金が使われます。大きな被害を受けた地域の復旧には莫大なお金がかかるので、もし税金がなかったら大変なことです。その他にも、警察や消防、ごみ処理といった公共サービス、学校、公園、道路などの公共施設が無料で利用できたりするのも税金があるからです。こう考えると、税金は利益を生まないサービスを維持するためには必要不可欠であるといえます。税金が無ければ日本の社会はうまく機能しないといっても過言ではありません。

このように、私たちが健康で文化的な生活を送るためにはなくてはならない税金ですが、私が税金に関して一番気になっていることは、社会保障費が年々増えていることに対して社会保険料収入がほとんど増えていないことで

No. 2

す。これは少子高齢化によって社会保険料を負担する働き手が少なくなっているにもかかわらず、年金、介護サービスを受ける高齢者が急増していることなどから社会保障費が不足している状況です。そのため、現在の社会保障の水準を維持していかうとすると、どうしても国民の税負担は大きくならざるを得ません。

税金といって中学生の私が一番に思いつくのは消費税です。その消費税は一〇%と少しずつ高くなっているイメージでしたが、消費税を採用している他の国と比較するとそれでも税率は高くないようです。税金は誰しもたくさん納めたくないと思います。しかし、現在と同じような生活水準をこの先もある程度維持していかうとすると、どうしても税収を上げなければ日本の社会は成り立たないと思います。そして、それだけではなく、何よりも税金を納める働き手を確保していかなくてはなりません。それためには少子高齢化に少

No. 3

しても歯止めをかける必要があります。出生率を上げるのが重要です。それを実現するためには子育てをしやすい環境の整備が必要です。国の財政は非常に厳しい状況です。しかし、悪循環にならないためにも、子どもを産みやすく、そして子育てがしやすい社会の実現が求められます。そして、そういったところに税金を多く投入することが大切だと思います。

税金の使い道は国会や地方議会で決められます。十分に議論してもらい、住みよい社会の実現のために有効に使ってもらいたいと思います。私はまだ中学生ですが、この先働くようになれば、いろいろな税金を納めなくてはならないと思います。税金は社会の会費のようなものです。一人一人がしっかりと納税し、国民の義務を果たすことによって、現在のよ

うな住みよい日本の社会がいつまでも持続でき